

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101843		
法人名	有限会社 ささえあい・ねっと		
事業所名	グループホーム さちね		
所在地	群馬県前橋市上細井町2015		
自己評価作成日	平成 25年 1月20日	評価結果市町村受理日	平成 23年 7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成25年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念に「家族」をテーマに掲げ、明るく暖かい、家庭的な雰囲気を心がけ、入居者様と職員が共に、楽しみのある生活が送れるよう日々努力しております。建物が木造で木のぬくもりが、感じられ回廊になっており天候に左右されず、廊下歩行で機能訓練ができる。採光が十分取り込む事ができる為、縁側でひなたぼっこを、楽しむような感覚も味わえると思います。中庭には季節の花々もあり、心の安定を図る。心のケアを重点に置き、ご利用者様ご家族様の、心の支えになれる様、寄り添っていきたく、思っております。訪問サービス等を取り入れながら外部の方々にも、お世話になりながら、ご利用者様の暮らしが、ご本人にとって居心地の良い場となれる事を、望んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「介護する人、される人誰もがみな家族です。地域の輪、触れ合いの輪、心のケアを大切に」を理念に掲げ、心のケアを大事に利用者に向き合い、迷った時は理念に立ち返り、利用者一人ひとりの思いを大切に日々の介護に取り組んでいる。毎月のモニタリングを受け持ちの担当職員が中心に行い、介護計画に反映させている。管理者は、職員と必要時に面談を行い、いつも精神的に安定した状態を保ちながら、利用者に向き合えるよう支援している。多くの時間を過ごすホールからは中庭の季節の花々を見ることができ、廊下では機能訓練を行ったり、ソファアーベンチで日光浴を楽しんだりして、過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員、ホーム理念のもと ご利用者の方の支援をし、会議の場で話し合いを重ね、その方にとって、望ましい取り組みとなるよう努力している。	「介護する人、される人誰もが皆家族です。地域との輪ふれあいの輪、心のケアを大切に」を理念に掲げ、会議の中で話し合い、利用者・職員お互いの心のケアを大切に取り組み、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接するスーパーに、食材の買い物に出掛け、挨拶を交わす。町内の催し物等の情報を町内の民生委員の方等から、情報を得る。	買い物では、スーパーの店員と顔なじみになり挨拶を交わしている。民生委員から町内の祭り等の行事を聞き、参加することもある。また、事業所の行事である6月感謝祭・12月クリスマス会には、利用者・家族・民生委員・ボランティアの参加で、職員の出し物等で楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、民生委員の方と認知症についての話題を、双方の立場で取り上げ、話し合いをする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の長寿会長・民生委員の方、ご家族の代表、市役所の方にご参加頂きホームの現状報告等をし、ご意見ご要望を伺う	長寿会長・民生委員・市職員・家族代表の参加で開催され、事業所の近況報告後に、話し合いを行っている。町内の消防訓練で煙体験が好評であり、再度煙体験訓練が予定されてる情報入手や民生委員からピンシャン体操のCDを頂き活用するなど、サービス向上に活かしている。	運営推進会議には、一人でも多くの家族が参加出来るよう工夫され、地域との結びつきを深め、活性化していけるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、毎回出席して頂き行政の立場からの、ご意見等も伺う。	介護認定更新の申請手続きやネズミ駆除相談で支所に出向いている。市の担当者とは、運営推進会議の場で情報交換でき、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が身体拘束廃止推進員となり、職員の共有認識を図っている。入居者の方々の安全第一と考えており、門の施錠のみ行っている状況です。	言葉の拘束をしないことを一番に掲げ、職員会議で話し合い、日常業務のなかで注意をし、身体拘束をしないケアの共通認識を図っている。外部者侵入の危険性を優先し門は施錠しているが、玄関は施錠せず玄関前の庭や中庭には自由に出入りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の場で、不適切ケアについて 取り上げ日々の取り組みが、適切であるよう職員で再確認する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等、理解不十分で支援できる体制が、万全とは いえません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関し、必ず説明し、ご理解頂いた上で、その都度ご相談しながら、対応させて頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で、ご家族のご意見ご要望を、伺う機会がある。玄関に苦情ノートを設置し対応する。来所の際に、ご意見ご要望を伺う。	面会時や毎月の利用料支払い時、運営推進会議で、家族からの意見や苦情を聞くようにしている。玄関に「苦情ノート」も置かれている。苦情・相談窓口の案内は、事業所1ヶ所となっている。	家族等の言えない心情を考慮し、苦情相談窓口は事業所1ヶ所ではなく、外部者へ表せる方法や窓口の周知を検討されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回定期的に全職員会議を設け、意見や提案は、その場で聞き 話し合いを行なう。会議ノートに記載し、代表者は目を通し確認している。	月2回定例会議を設け、利用者の状況等を含めて話し合いをし、入浴時間を午後にしたかどうか等検討して実施している。日常的に、「申し送りノート」に気づいた事を記入し、検討事項に繋がるものもあり、業務に反映されている。管理者は、必要時に職員と面談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議ノートや管理者からの報告により、個別職員の業務に関する事や、職場環境等を把握し、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できた者が、会議の場で報告し、全職員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の同業者との交流する機会が、中々もてない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前、ご家族に ご見学に来て頂き、細かく聴き取り行う。ご自宅等に出向き ご本人様 ご家族の話を伺い状態把握する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お困り事、ご要望等伺い、解決策をご一緒に考えながら、支援する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族に思いを伺いできるだけその思いに、お応えできるように、取り込む。外部の方のご協力も得る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩である入居者の方々から昔の生活場面の様子や、行事等の話を聴き、取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来所しやすい環境づくりをし、行事の際には、ご家族に参加して頂き、ご本人様・ご家族様に喜んで頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しいお知り合いの方、ご友人の方が 来所しやすい環境づくりに努めている。	家族・親戚・孫等の面会時には、ゆったりと過ごして頂いている。友人の訪問があっても認識出来なかったり、正月に外泊された利用者が落ち着かなかったりと困難となっている。歩行機能が低下し、外出は難しいため、家族が来所し一緒に同じ時間を過ごしてもらうよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方々の日常の会話、表情行動を把握し、職員と一緒に関わりながら、入居者様同士の良い関係がもてるよう支援する。共有スペースでのその方にあった居場所を見つけ出す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は退居された後も交流がありましたが、現在は書類等のご要望があり応じる程度となっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、行動の中から本人の思いや意向を把握し、家族からも情報を得て、職員間で共有し日々のケアに、活かすようにしている。	日々の行動・表情から意向を把握するよう努め、家族からは生活歴等を聞き、趣味も活かせるようにしている。利用者に何が食べたいか問うと「わからない」と返答するため、広告を見ながら「こんなの良いね」と食事の好みを聞く等、職員間で把握方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族から、お話を伺い今までの暮らしに近い状況で、サービス提供できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々心身の状態の変化、その方の生活リズム、できる事できない事を申し送り・会議等で全職員で把握して、望まれる生活を提供できるよう努力する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行ない、全職員で見直し評価し、主治医やご本人、ご家族に、ご意見伺い作成している。	本人や家族の意見を聞き、日々の記録や業務日誌を参考にカンファレンスを行い、主治医の意見もいれて、管理者・ケアマネージャーが介護計画を作成している。モニタリングは毎月受け持ち担当職員を中心に職員会議で話し合い、介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌には特に身体・精神面の変化を記入し個別の記録等をもとに、介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月2回の内科の往診、週に一度の訪問歯科、毎月の訪問サービスの散髪、平日のマッサージ等、ご要望に応じ取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問サービスの散髪、マッサージ等を、ご希望で行ない、気分転換をし、生活にはりを持たせる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族のご希望により、月2回ホームに内科の往診、訪問歯科週1回と親身になって協力して下さる、ドクターがいる。	入居時に説明し、利用者全員希望で協力医が主治医となっていて、月2回の往診を受けている。週1回歯科医の往診もある。協力医と緊急時の相談ができ、点滴が必要な場合は訪問看護で対応している。受診結果は家族面会時に報告、職員間は業務日誌で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に、看護師は配置されていないが、主治医の看護師が、連絡すれば訪問し Dr.の指示のもと処置等して頂ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の受け入れの手配は、主治医が親身になって、相談に乗って下さる。入院された際には、度々面会に行き、状態確認し可能であれば、早期退院できるよう働きかける。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについての、指針を作成し説明させて頂く。ご家族、主治医、ホーム側とで話し合いをし、その時で意向を確認しながら、対応している。	入居時に、「重度化や看取りについての指針」で看取りは行わないと説明している。一例看取り体験をしており、今後その時の状況を参考に、職員会議で話し合い、利用者の状態をみながら、その都度主治医と家族・職員で話し合い検討していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを掲示し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者の方も参加し、避難訓練行なう。消防署の方のご指導で、避難訓練、消火器の使い方等の訓練を行なう。緊急時に地域の方の協力体制がある。	年2回、昼間・夜間想定で消防署員立会いの基、利用者参加で避難訓練を実施している。緊急時には地域の方4名の方と協力関係が出来ているが、訓練参加はされていない。	住民への呼びかけをして、避難訓練時に、施設の間取りや利用者の行動等を参加して頂くなかで実際に見てもらい、協力を得ることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の方に対する声かけや、対応は会議等で話し合い確認している。	本人や家族に了承を得て、女性の利用者には名前で、男性の利用者には苗字で呼びかけている。言葉かけには気をつけながら、トイレ誘導や入浴介助を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援する前に、言葉掛けを行ない、ご本人様のご希望を伺う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やりたい事が分からない方は、日課となっている事も無理せずに行ないながら、職員側が柔軟に支援、働きかける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の訪問サービスの散髪や、ホームで髪染めを行なったり、外出や行事等の際、お化粧し若々しく楽しんで頂けるよう、取り組んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の方と職員とで台所に立ち、食事の仕度、片付け等も行なう。会話の中から好きなメニューを、お聴きし取り入れている。	現在職員と一緒に食材の皮むきや盛り付けの出来る利用者は1名だが、テーブル拭きや味見をして頂いている。利用者の希望も入れて調理し、職員は食事介助や声かけをしながら一緒に食事をしている。チラシを見て外食に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が栄養のバランス・食べやすい物等を、考慮しながら献立を作成している。苦手な物は代替し、食事・水分摂取量はチェック表で確認しながら、情報を共有し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日課として毎食後口腔ケアを、行なっている。訪問歯科のサービスを利用し、特に自歯の方の口腔ケアを強化している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排尿間隔が空いている方には、さり気なく声かけ誘導行なっている。お一人おひとりの排泄サイン等を、職員が情報共有し把握している。	排泄チェック表を参考に排泄状況を把握し、基本はトイレとしている。一人ひとりの体調や水分摂取後の時間を見てトイレ誘導し、夜間はパット交換等で、個々に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に排便間隔記録して、間隔が空いている方に、起床時に飲むヨーグルト等を提供し、常に繊維質の食事を心がけ、廊下歩行等も取り入れ排便を促す努力をする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週末は面会の方が多い為、日曜のみ入浴お休みとし、それ以外はいつでも入浴できる体制にしているが、職員の勤務状況によるので時間の制限は、ある。	日曜日以外は、何時でも入浴出来る体制になっているが、希望される利用者はいない。基本は、週2回の入浴とし、便失禁の場合にはシャワー浴で対応している。季節の柚子湯やゆったり入ってもらうよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて、なるべく日中は活動的に支援をしていくように、生活のリズムを整えていけるよう、努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表で、お一人おひとりの薬の理解ができる。手渡しする際には、お名前等の確認、声かけ等している。チェック表でその都度チェックして、誤薬を防ぐ取り組みをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、ご家族に伺いながら、その方にとっての楽しみ、役割を見つけ出し、生活に張りをもていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い暖かな日は、気分転換を心がけている。毎月の行事や週末には外出の機会を、なるべく設け、その日の体調考慮し外出できる方のみ、行けるよう取り組んでいる。	天気の良い日は、体調に合わせ散歩に出かけたり、中庭で日光浴をしながらお茶を飲んだりして、気分転換を図っている。毎月の外出行事は計画し全員参加で出かけ、1月は青柳大師に初詣に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際、買い物の希望等があれば、立替お渡しし、ご自分で使用することは、可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文字がかける方は、ご家族あてに年賀状を出し、ご家族からも届く。定期的にご家族から、お電話がくる方も、います。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中長い時間過ごされる食堂・居間は、採光十分で開放感があり、ゆったりと過ごされている。中庭には、季節の花々を植え、季節感を取り入れている。	玄関には、雛人形や花が飾られ季節感を取り入れている。浴室・トイレには、それぞれ暖房器が設置されている。廊下には、腰を掛け休めるコーナーがあり、日差しを感じながら中庭の季節の花々を楽しむ事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には、ベンチが設けてあり、日向ぼっこしながら、ご利用者の方同士や職員と、おしゃべりを楽しまれる。和室には、ソファーや座椅子で、くつろがれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのタンス、ちゃぶ台、写真、趣味のもの等が持ち込まれ、安心して過ごせるような、配慮をしている。	フローリングと畳が敷かれた居室は、落ち着きを感じる。テレビ・タンス・加湿器等が持ち込まれたり、家族写真が飾られたりして、居心地良く過ごせるような居室づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下等に手すり設置、歩行の安全確保、トイレには目印があり場所の確認ができる。		